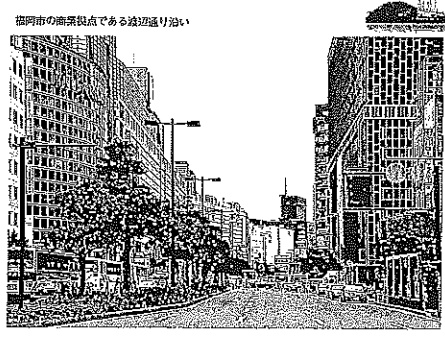


特集ふくおか 2010



天神VS博多ではなく天神・博多に博多駅周辺と切磋琢磨で一体的発展を実現へ

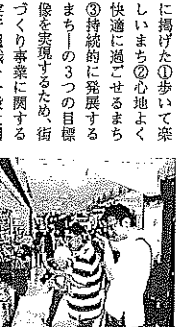


「めざすは福岡の面的発展」—地元経済人がそるって口にする言葉である。九州新幹線鹿児島ルートの全線開業、新博多駅ビルの完成が来春に迫る中、九州最大の商業エリアである天神地区は、競争ではなく協調して発展していくことに重点を置き、これからの街づくりを進めていく。

博多部とは共存共栄 対立おぼる風潮に異論

博多駅ビルと競う気持ちは毛頭ない。新博多駅を九州一円に波及させようという時、博多と天神という地域競争だけに終始に抑げた①歩いて楽しいまちの心地よく、快適に過ごせるまち、②持続的に発展するまちの3つの目標像を実現するため、街づくり事業に関する実行組織を一般社団法人・We Love天神(永年幹事代表理事 恵として法人化した。法人化したこと、これを進めてきた街づくり事業に加え、行政からの委託事業などを積極的に推進する。陶山理事長は「協議会が満足して今年で5年目となり、天神地区のまちづくり活動をより質の高いものとして進めるために街づくり事業に関する分野を法人化した。これにより、協議会の認知度や信頼を高め、より幅を広げた活動を行っていききたい」としている。

特集ふくおか 2010



外国人プロガーがパルコを取材

「3エリアマネブーズ」を設け、各団体の活動の紹介や最新の地域情報などをPRした。3エリアマネブーズは各地域間の相互交流の促進や九州としてのブランドを発信することを目的に設立された。We Love天神と名称を決めた。将来には九州7県で活動を行いたいという構想もある。陶山理事長は「福岡市内の回遊性向上ももちろんだが、新幹線の全線開業とあわせて九州全域を開遊できる構想も強固になってきている」と話している。

なお続く「パルコ効果」 韓国人も取材に訪問

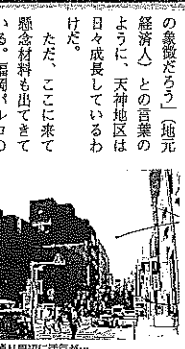
陶山理事長の口にも出た福岡パルコの開業は、ここ近年にはなかった天神地区での大規模商業ビルの開業だっただけに、効果は大きく見込まれていた。04年7月に開業した旧福岡屋本

天神地区とともに、オフィス街を中心とする博多駅周辺地区が福岡市の一大極点として確立されているわけだが、その博多駅周辺地区で、九州新幹線鹿児島ルートの全線開通とともに、新博多駅ビル、「JRB博多シティ」が来春に開業することで商業機能が拡充される。新ビルには博多駅東急ハンスの大型店だけでなく多くの物販、飲食の出店がなされ、博多駅周辺地区にも一大商業ゾーンが誕生するわけだ。このことを想定してか、一部では両地区間の商業競争が激化するとして、いつしか「天神VS博多」と呼ぶ風潮が広がっていた。

法人化で活動の幅を広げる「天神協議会」

天神地区の街づくりをけん引する団体も、その考えで一致している。We Love天神協議会の陶山理事長(二モカ社長)は博多地区と天神地区の回遊性を高め、共存共栄の体制を早急に確立する必要がある」と話し、その好例として、3月にオープンした福岡パルコをあげる。「パルコ開業の効果も、周辺の既存商業施設や商店街には多くの人が訪れた。天神地区では前例がなかった。JRB博多シティ開業も福岡の街という単位で実践していけばいい」と話す。同協議会は4月から、自ら作成した「まちづくりガイドライン」

特集ふくおか 2010



西通り周辺に活気あり

の象徴だろう。地元経済人の言葉のように、天神地区は日々成長しているわけだ。ただ、ここに来て懸念材料も出てきている。福岡パルコの開業などで天神中心部のにぎわいは好調となつている一方、天神地区でも若者文化の拠点だった西通り、大名地区周辺の活気が失われつつある。西通り周辺といえはかつて、地盤が急激に高騰して海外の不動産投資家も参入してのま、ハイゲームの舞台となった場所。近年では物件によっては坪単価4000万円以上をつけたものもあつたほどだ。

そのほか、世界同時不況の影響などで地盤は急落、海外ファンドは警戒し、残されたのは売却しようにもできない、利用するものもおぼつかない物件が目立ち、相場を押し下げた。このように新たな課題も出てくるが、その歩み止めるわけにはいかない。九州一の商業都市・天神地区の活性化、さらには博多駅周辺との面的発展への道筋を早急に示すことが急がれている。